

# 令和7年度第2回国分寺市協働事業審査会 報告

令和7年度第2回国分寺市協働事業審査会において、提案型協働事業の第1次審査として書類審査をいたしました。結果は、下記のとおりでございます。

## 1 審査概要

日 時 令和7年8月19日（火）午後1時05分から午後3時40分まで  
場 所 国分寺市役所3階 会議室302  
審査委員 6名  
審査案件 4件

## 2 審査結果

3件 合格 / 1件 不合格

※詳細は別紙「審査結果一覧」及び「不合格の理由」を参照。

## 3 審査・選考方法

審査項目を判断基準に照らして評価し、合計得点が合格基準点以上の提案を第1次審査合格提案とする。

＜合格基準点＞

出席委員人数×審査項目×3点（どちらかといえば評価できる）

※今回は6名×7項目×3点＝126点

＜審査項目＞

審 査 項 目		内 容
1	事業の目的	市民や地域のニーズ、社会問題や地域課題等を踏まえたものであるか。また、市が関わる必要性が認められるか。
2	独創性・先駆性	提案は独創的かつ先駆性があり、今後の協働事業のモデルとなり得るか。
3	実現可能性	実施体制、実施方法やスケジュールが合理的で、実現可能性は高いか。
4	役割分担	団体と市との役割分担は明確かつ妥当か。
5	協働による効果	協働することで質の高いサービスが提供でき、また、相乗効果・波及効果が期待できるか。
6	費用の妥当性	提案内容を実現するための妥当な経費見積りとなっているか。
7	事業遂行能力	団体には事業遂行上の問題を解決していくための専門性及び経験が十分にあり、また市と一緒に事業を検討し練り上げていく能力があると認められるか。

<判断基準>

6点	非常に高く評価できる
5点	高く評価できる
4点	評価できる
3点	どちらかといえば評価できる
2点	どちらかといえば評価できない
1点	あまり評価できない

#### 4 参 考

国分寺市協働事業審査会委員一覧

(敬称略)

委員種別	氏 名	職 業 な ど	出欠
1号委員	跡部 千慧	東京都立大学 人文社会学部 人間社会学科 社会学教室 助教	出席
同 上	山岸 絵美理	大月市立大月短期大学 経済科 准教授	出席
同 上	岡本 祥公子	認定特定非営利活動法人 サービスグラント 代表理事	出席
2号委員	村越 隆治	政策部長	出席
3号委員	宮本 学	総務部長	出席
4号委員	杉本 守啓	市民生活部長	出席

会 長：跡部 千慧

副会長：村越 隆治

令和7年度募集 提案型協働事業第1次審査の審査結果

■審査結果 3件 合格 / 1件 不合格

■合格基準点 6名×7項目×3点＝126点

提案 No.	事業名称	提案団体	担当課 (協力課)	委託額 (提案総事業額)	得点/ 満点中	合否	審査項目							合計 得点
							1 事業の 目的	2 独創性・ 先駆性	3 役割分 担	4 協働に よる効 果	5 費用の 妥当性	6 事業遂 行能力	7 実現可 能性	
①	公園で行う防災体操教室事業	認定特定非営利活動法人 健康体操指導ワーカーズ	防災安全課	306,006円 (306,006円)	138点 ／252点	合格	21	17	19	19	18	23	21	138
②	国分寺市自転車交通事故件数の 削減に向けた教育事業	特定非営利活動法人 and Advance	交通対策課 (学校指導課)	517,000円 (517,000円)	106点 ／252点	不合格	15	14	13	15	17	18	14	106
③	ソーシャル・イノベーション・ アカデミー事業	ソーシャル・ イノベーション・ アカデミー	協働コミュニティ課 (政策経営課)	700,000円 (1,030,000円)	144点 ／252点	合格	25	21	20	20	17	20	21	144
④	交流と連携による 地域活性化事業	特定非営利活動法人 エンツリー	協働コミュニティ課 (政策経営課)	1,119,371円 (1,119,371円)	180点 ／252点	合格	26	23	25	27	24	30	25	180

提案 No.	②		
事業名称	国分寺市自転車交通事故件数の削減に向けた教育事業		
提案団体	特定非営利活動法人 and Advance		
担当課	交通対策課	協力課	学校指導課
得点	106 点/252 点中		
【不合格の理由】			
<p>貴団体がこれまで他自治体で実施してきた実績に基づき、市内の交通事故件数が増加している現状に対し、事故件数の減少等を図るため、原因のひとつである自転車事故に着目した実施内容は評価できます。</p> <p>しかし、特に次の３点を理由に、協働による効果に疑問が残るという結論に至りました。第１に、主な対象である市内中学校においては、手法は異なりますが既に全ての生徒が受講できる安定したサイクルで交通安全教室が実施されています。既存の事業と並行する場合、交通安全に対する更なる意識醸成にはつながると考えますが、協力課である学校指導課の意見も踏まえ、学校の授業が過密である現状では、並行実施が困難であると想定されます。</p> <p>第２に、提案された事業に置き換えた場合、既存事業と比較してプラスアルファの効果が見えづらいことなどから、実現可能性、独創性・先駆性、役割分担の項目の評価が低くなりました。</p> <p>第３に、市における自転車の交通事故の多くは 20 代から 40 代までの世代で発生しており、主となる事業内容における対象者のミスマッチが起きています。</p> <p>今後も担当課とのコミュニケーションを図り、市の現状や実現可能性を考慮した上で、貴団体の特色を更に活かした事業の提案を期待しています。</p>			